

「エイカン穴」のはなし

伊深町牛牧の川浦川に架かるネコギギ橋を渡り、高木山を少し登ると、上部の岩が手前にせり出し、大きく口を開けた高さ約3 m、奥行き約8 mの岩屋があります。

明治のころ、その岩屋に一人の行者が住んでいたと伝えられています。いつもはそばだけを食べて、火を通したものは食べませんでした。村人とも大変仲が良く、病気をしたときは、村人が持ってきた粥かゆをうれしそうに食べたといいます。

現在、その岩屋は「エイカン穴」と呼ばれています。岩屋の名は、ここにいた行者の名前から付けられたとも思われます。



高木山(山之上町)



エイカン穴